

友だちづくり 大学が手助け

前年秋合格 入学前の不安に対応

「大学に入ったら、友だちができるだろうか」。入学前の高校生らの不安に 대응しようと、大学が「友だちづくり」の手助けに乗り出している。インターネットの交流サイトを作ったり、入学前の準備教育でイベントを実施したり。友だちができないために大学にないじめや中退する人を減らそうと手間ひまかけて応援するようになった背景には、合格発表から入学まで半年近く時間が空く推薦・AO入試の普及があるようだ。(増谷文生)

交流サイト導入

「今日はこのSNSで友達になった人と一緒にいました！友達っていいね♪」
「今日はお疲れ様！楽しかったよ！……！」
関東学院大(横浜市)工学部が入学決定者向けに設けた交流サイト(SNS)の「友達をつくるう」というコミュニティへの書き込みだ。

同学部がSNSを導入したのは2年前。推薦入試やAO入試で前年秋に合格が決まった人に、高校までの勉強を学び直す入学前準備教育を行うようになったことがきっかけだった。インターネットを使って場所や時間を選ばずに勉強できるeラーニング式で実施したところ、学生生活に対する質問が続出。このため学生と大学教職員、さらに学生

同士がやりとりできるSNSを導入した。今年度の入学生は、91%がこのSNSにログインした。中でも「友達をつくるう」はダントツのアクセス数だ。今年度は2位の「何でも相談室」の3倍近い2169件ものアクセスがあった。「いろいろな人とやりとりして、入学するのが楽しみになった」「入学前の不安がやわらいだ」と

の感想が寄せられている。

同学部の辻森淳教授は「高校から1人だけ入学する学生らに不安を訴える子が多い。一般入試なら直前まで受験勉強をするので考える時間が少ないが、推薦・AO入試の合格者は入学まで半年も間が空くので不安が大きくなるようだ」と話した。

毎年3月に集い

大阪学院大・同短大(大阪府吹田市)は、「リアル」な友だちづくりの場として、毎年3月に入学予定者の集いを開いている。友だちをつくって大学生活をスムーズに始め、



ひいては中退する学生を減らす効果を期待している。在学生が主導してゲームや自己紹介をして交流するとう。

友だちができないことを理由に中退する学生の多さに悩んでいた聖学院大(埼玉県上尾市)では、10年前から続けている入学前準備教育を、学

部学科の垣根を超えた友だちづくりの場と位置づける。AO・推薦入試で合格した入学予定者は、希望すれば2月上旬から11日間、予備校講師の指導を受けることができる。ここで、テーマを決めてフリートークをするなど、入学予定者同士がやりとりする機会を意識的に作っているという。

山下研一広報企画部長は「友人づくりが苦手な子には、準備教育を手伝う在学生が悩みを聞き、社会的な子に引き合わせることでまでしている。在学生にも後輩の面倒をみることでコミュニケーション力がつき、一石二鳥の効果がある」と話す。